

オレンジ Orange ゆうき Vol. 7

【発行】

結城市認知症地域支援推進員

結城市地域ケア推進係

令和6年3月1日

認知症のサインに気づいたら～早期の発見へ～

認知症は、原因によっては「早期に」適切な対応をすれば、進行を抑えることができます。認知症のサインに気づいたら、、、

◎かかりつけ医、物忘れ外来・認知症外来などへ相談する。

◎必要であれば、家族だけで病院へ相談することも考える。

「判断がむずかしい」「受診の前に相談したい」等があれば…

⇒地域包括支援センター(東部/西部/南部)へご相談ください！

「Orangeゆうき」
は、認知症について
皆様に知っていただく
ことを目的とした
結城市独自の広報紙
です！



Dementia Friendly City

認知症の人にとって、やさしいまちになるように

お困り事・相談事は、以下までご連絡ください

東部包括：45-5501

西部包括：45-8222

南部包括：54-6477



認知症の人の増加に伴い、介護する家族も増加しています。
認知症の方にやさしい地域を推進するためには、共に暮らす家族の支援も必要です。
今回は、介護者の集いである「介護者交流会～すまいる～」やオレンジカフェにご参加いただいていたご家族の声をお届けします。

《石井由紀子さんへ、インタビュー》



Q.認知症の診断を受けた時は、どのような状況でしたか？

A.母が93.4歳の頃、同じことを何度も聞くようになり、私が「さっき言ったでしょう」などと会話する回数が増えたので、先生に認知症の検査をお願いしました。先生は「軽い方だ。93になって大したもんだ」とおっしゃっていました。母に聞かれたことを受け止めて何度も説明することを繰り返し、歯ぎしりする様な気持ちになったこともありました。私の娘に全部受け止めないでスルーする様にと言われたことを思い出して、「そうだ」



って思ったんです。私は義理の両親と父も看てきましたので、母には「誰でもなるんだよ。恥ずかしい事ではないから、隠す必要はない。」と話をしました。周りの人には、「いつも新鮮な人なんです。新鮮なおばあちゃんだと思ってください。」と話しました。

Q.お母さまと一緒に色々な活動に参加されて、どう感じましたか？

A.母は外に出ることが好きでした。歌手の『秋川雅史さん』が大好きで、父が亡くなってからは月1回、多い時は月3回コンサートなどに一緒に行きました。結城市でも、いきいきヘルス体操などに参加をしました。最近はオレンジカフェや介護者交流会にも参加をして、母と同じ年齢の人と知り合うことで、周りの人から聞いて母の気持ちを理解できることもありました。人と接する事で自分が得ることがある。これから先の私にも、プラスになると思っています。

Q.お母さまの最期を看て、今はどんなお気持ちですか？



A.母に対して、後悔はありません。「やり残した事があったかな？」と聞くと、母が降りてきてしまいそうなので、やめています。私には家族、近所の人、若い友人、母と関わったことで知り合った皆さんなど、支えてくれる人がいます。一人で介護していたわけじゃなく、いつも色々な方が支えてくれました。家族の繋がり、人と人との繋がりが大切だと思っています。私は「幸せナンバーワン」だと勝手に思っていれば、明るく過ごせるような気がしています。



【Orange(オレンジ)ゆうき】

発行責任者/結城市地域ケア推進係 編集/結城市認知症地域支援推進員
〒307-8501 茨城県結城市中央町二丁目3番地 地域ケア推進係
TEL 0296-34-0324/FAX 0296-20-8767/メール kaigohoken@city.yuki.lg.jp

※写真等の個人情報は、ご本人の同意を得て、掲載させていただいております。

